

編集後記

2016年8月、日本は暑い夏でした。また、南米大陸で初の開催となるリオデジャネイロオリンピックで盛り上がり、熱い夏ともなりました。ブラジルでの開催は、治安や感染症の問題で不安な要素もありましたが、世界中に大きな感動を与え、成功裡に閉幕しました。

日本選手の活躍は目覚ましく、過去最高41個のメダルを獲得しました。特に若手の成長は著しく、個人でも団体でも好記録をマークしました。幼少期から日々の練習で鍛えられ、汗と涙を流して掴み取った栄光とアスリートの魂に、日本人は皆心から拍手を送りました。

女子柔道で金沢市出身の松本薫選手が銅メダルを獲得するなど、様々な競技で北陸勢の活躍が目立ちました。本学からも、トランポリン競技に中野蘭菜選手が出場し、ドクターとして奥田鉄人氏が参加しました。地元や母校所縁の人がいるとより身近に感じられます。

インタビューで選手たちが一様に口にしたのが、支えてくれた人々への感謝の言葉です。己一人だけの力で得られるものでないことを自覚しているからこそ、大勢の人々の思いを高い身体能力に変換できるのでしょうか。若い世代に明るい未来を見出せることは幸せです。

一方、若い世代の価値観に深い闇があることに気付かされた相模原事件もありました。「障害者は生きる価値がないので、いなくなればいい」旨の動機による犯行だったことに戦慄しましたが、パラリンピックで活躍する選手の姿を見て犯人はどう思うのでしょうか。

人間の能力について、「健常者は優れ、障害者は劣る」などと単純に大別することはできません。誰しも生身の肉体を持つ以上、病気や怪我で身体が毀損し障害を負うことはあり得ます。障害によって失われた能力に負けず生きる姿こそ、学ぶべき価値があるでしょう。

人間が織り成す明と暗、正と負に思いを馳せながら、『人間科学研究』第10巻第1号をお届けします。今号は、こども学科5件、スポーツ学科3件、経済学部1件、人文学部1件、合計10件の投稿がありました。

どうぞ高覧ご批評くださいますよう、宜しく願い申し上げます。

2016年9月吉日

編集委員長 馬場 治

《投稿された論文等に関する著作権は基本的に人間科学部に帰属します》

金沢星稜大学人間科学研究 第10巻第1号
(通巻第18号)

平成 28 年 9 月 27 日 印 刷
平成 28 年 9 月 28 日 発 行

発 行 金沢星稜大学学会人間科学部会

〒920-8620 金沢市御所町丑10番地1
TEL (076) 253-3984
FAX (076) 253-3998

印刷所 ソノダ印刷株式会社

〒921-8161 金沢市有松4-3-26
TEL (076) 247-5157

金沢星稜大学学会人間科学部会

部会長 永坂正夫

編集委員 馬場治(委員長)

齊藤陽子 連 桃季恵